時事新報

社告

時事新報定價

一枚金三錢○一箇月前金六十五錢○三箇月前金一圓八十錢○六箇月前金三圓四十錢○一箇年前金六圓五十錢○東京十五區內並ニ横濱區內ニ限リ配達業費○前記東京横濱ヲ除クノ外日本國內並ニ海外郵便約圖（歐洲諸國等）（御送ノ郵便稅ハ一箇月金廿六錢一箇年金三圓十二錢ノ割ヲ以テ前金ニテ申請候事

（日曜日ハ休刊）

時事新報廣告料（前金）

○二日以上六日間以內一行ヨリ十行迄一行ニ付一日分金八錢、十一行ヨリ三十行迄一行ニ付一日分金七錢、三十一行ヨリ五十行迄一行ニ付一日分金六錢五厘、五十一行以上何行ニテモ一行ニ付一日分金六錢、但シ六日間以上掲載ノ分ハ定價一割引、十五日間以上同新同一割五歩引、三十日間以上同新同二割引

○一箇限廣告一行ヨリ十行迄一行ニ付一日分金十錢、十一行ヨリ三十行迄同金九錢、三十一行ヨリ五十行迄同金八錢、五十一行七以上同金錢（注意）本社廣告料一日限リ掲載ノ分匹正シ三月一日ヨリ右ノ通計算改版但二日間以上掲載ノ分ハ從新ト少シモ異ナルコトナシ

公報

○大藏省達第九號　府縣國稅局札幌根室沖縄ノ四縣ヲ除ク

明治九年（十月）乙第八十四號達本年ヨリ廢止ス

右相達候事

明治十八年三月十七日　大藏卿伯爵松方正義

○東京府廳丙第三十二號　郡區役所　戶長役場

區町村費ノ徵收科目ニ付テハ明治十七年丙第八十三號ヲ以テ通置候處尙國口割ノ目ヲ追加候條此旨相達候事

明治十八年三月十七日　東京府知事芳川顯正

敍任

○明治十八年一月廿八日

任三等軍醫　渡邊鼎太郎

仝　秋規

○明治十八年二月十二日

任一等藥劑官　二等藥劑官從七位　大前寛忠

○明治十八年二月廿一日

任騎兵少尉　輜重兵少尉正八位　東常久

○明治十八年三月五日

任步兵大尉　步兵中尉從七位勳六等　沖野精義

時事報報

支那帝國ニ禍スルモノハ儒教主義ナリ

我輩漢學ハ至テ不業內ナレ𪜈少年ノ時ハ諸方ノ先生ノ門ニ入テ四書五經以上一ト通リハ學ビ得テ先ヅ日本國中ニテ漢學者ノ優劣ヲ評シタラバ我輩モ其中通リニハ位スルコトナラン扨世ノ中ニ大學者ハ甚ダ少クシテ其高尙論ハ人ノ耳ニ入ラズ左レバトテ極下等ノ學者モ世ニ重ンゼラレズシテ其言ヲ聽クモノナシ故ニ漢學ハ如何ナルモノゾト尋ルトハ正ニ我輩如キ中通リノ學者ガ解シ得タル所ノモノニシテ漢學ノ主義ナレト答ヘテ大ナル過ナナカル可シ如何トナレバ仮令ヒ我輩ノ漢學說ガ老儒碩學ノ耳ニ逆フテ漢土儒教ノ旨ト申スハ左樣ニ淺ハカナルモノニ非ズナド、異論說明スルモ是レハ所謂儒教ノ奥ノ話ニシテ世上ノ人ハ之ヲ知ラズ兎ニ角ニ酒々タル天下ニ行ハル、所ハ其學ノ餘リ高カラズ又餘リ卑カラズシテ中邊ニ在ルモノヲ以テ最モ廣クシテ有力ナリトス可キガ故ナリ左レバ漢學ノ主義ハ我輩ノ解スル所ヲ以テ天下普通ノ社會ノ人ノ普ク知ル所ナレ𪜈綱リ知ラザル者ハ支那國當路ノ主治者ニシテ其軍敗レテモ敗レルヲ見ズ、兵士殺サレテモ殺サレタルヲ聞カズ偶マ親王李陽章ノ如キ老儒中ノ錚々ニシテ少シク西洋事情ノ一端ヲ耳ニシテ少シク文明ノ採ル可キヲ合點シ洋鬼ノ主義ニハ服セザレ𪜈其器械ヲハ利用センナド言フ者アレバ此種ノ人物ニテモ洋鬼ニ堪ヘズトテ之ヲ擯斥シ其餘ハ都テ是レ儒流ノ群集ニシテ俗ニ所謂盲者蛇ヲ畏レズノ政略ヲ以テ今日ノ有樣ニ至リシナリ幸ニシテ佛人ノ擊動毎ニ不活潑ニシテ日ヲ曠ウシタレバコソ尙未タ大事ニ及バザレ𪜈佛モ亦今ハ騎虎ノ勢ニシテ中途ニシテ退クニ面目モナカル可ケレバ遂ニ一日ハ遁テ大ニ和戰ヲ兩斷スルノ時アル可シ此マヽニ戰テ止ムコトナカラン歟、佛人ノ目的ハ北京ヲ取ラザレバ飽カズ、或ハ支那人ガ和ヲ乞ハン歟、其賠償ノ重キハ世界ノ耳目ヲ驚カス程ノモノナラン加之佛人仮令ヒ一度ビ和議ニ應シテ退クモ支那國ノ敵ハ獨リ佛ニ止マラズ英アリ獨アリ又露アリ支那政府ニ本ト罪ナシト雖𪜈十八省ノ富有ヲ抱ク是レ其罪ニシテ西洋文明ノ諸强國ハ自國人ノ功名心ヲ驅ルカタメ又其利慾心ヲ滿足セシムルガタメ事實ノ要用ニ迫ラレテ此富有國ニ蝟集シテ求ル所ナキヲ得ズ而シテ富有國ノ主人ハ內ヲ治ルヲ知テ外ニ接スルヲ知ラザル儒教主義ノ故老輩ノミ支那帝國ノ運命前知ス可キナリ

漢學ノ功能ヲ說クトハ其主義ヲ二分シテ一ヲ脩身論トシ一ヲ政治論トシテ見ル可シ而シテ其脩身ノ部分ニハ既テハ餘リ奇拔ノ言モナシ唯尋常一樣古今世界普通ノ教ニシテ、博ク愛シテ物ヲ害スル勿レ、事ノ宜シキニ從テ利ヲ貪ル勿レ、禮儀ヲ重ンジ是非ヲ辨シテ言必ズ篤ク勿レト申ス位ノコトナレバ人々一身ヲ脩ムルノ心得ニハ至極適當ナルガ如クナレ𪜈其政治論ニ至リテハ宜國ノ根本唯一國內ニ限リテ然カモ君子ノ道ト稱シ專ラ人ヲ治ムルノ法ノミヲ講論シテ苟モ政治上ニ關シテハ自治ノ實ヲ敎ヘタルモノナシ故ニ此儒教ノ行ハル、國ニ於テハ政治上ニ人ノ種類ヲ二樣ニ區分シテ治ムル者ト治メラル、者ト上下ニ定マリテ之ヲ國民ノ分限ト稱シ被治者ハ唯自國內ノ主治者ニ事フルノ道ヲ知テ自カラ國ヲ守ルノ義務アルヲ知ラズ主治者モ亦唯自國內ノ安寧サヘ維支スレバ能ニ求ル所ノモノナキガ故ニ政治上ノ事ハ何ニ付テモ善キコトノミヲ被治者ニ聞カセテ安心セシメンコトヲ謀リ例ヘバ國內ノ或ル部分ニテハ人民飢渴ニ苦シミ甚シキハ一揆騷動ノ沙汰ニ及ブモ公ニハ萬民鼓腹ナド、囃立テ、兎ニ角ニ天下太平ノ外面ヲ裝飾ス可キヲ勢ニ於テ免カレザルノ數ナリ之ヲ要スルニ儒教ノ主義ハ戶外ニ關係ナキ一身ノ私德ヲ脩ムルノ教トスレバ中人以下凡庸ノ爲ニハ甚ダ好シ又ニシテ國ノ政治ニ施シテモ其國ガ外國ニ交ハルコトナク治ル共ニ一國內ニ限ルモノナレバ亦以テ安寧ヲ保ツニ足ル可シト雖𪜈交通ノ便利漸ク開ケテ國ノ利害漸ク外ニ關係シ國民ノ眼界漸ク廣クシテ內外ヲ比較スルノ念ヲ生スルニ至テハ儒教ハ國要ヲ維持スルニ功能ナキノミカ却テ國ヲ亡ボスニ足ル可キノミ

以上ハ我輩ノ立論ニシテ之ヲ今日ノ事實ニ證スルニ支那ハ純然タル儒教國ニシテ其外國トノ交通繁多ナラザリシ時代ニハ國內モヨク治マリタリト稱シテ其國ノ公文又ハ歷史記事等ヲ見レバ所謂鼎腹擊壤ノ樂國ノ如クナリシガ晩近世界ノ交通法ニ一面目ヲ改メ外國トノ關係一段ノ繁ヲ增スニ及テ其立國ノ主義ハ曾テ國ヲ守ルノ用ヲ爲サヾルノミナラズ上流主治者ノ地位ニ居ル輩ガ祖先以來虛誇自大ノ習慣ヲ遺傳シ來リテ今日ハ既ニ其性ヲ成シ遂モ自省ノ念アルナシ去年來佛蘭西トノ高麗ニ就テモ終ニ兵端ヲ開キ我輩ノ所見ハ最初ヨリ支那ノ敗ヲ豫期シテ疑ハズ今ノ支那政府ノ政略ト其軍器トヲ以テ西洋ノ文明國人ト戰ハントスルハ人足ニ大八車ヲ引カセテ蒸汽車ト競走スルニ異ナラズ其勝敗論スルニ足ラザルノ理ナリト定メ我輩ノ所見ヲ以テ

雜報

○行幸の御日取　福岡縣下豐前國行事村へ行幸御發輦の御日取ハ來四月上旬と御決定相成りしよし既に本紙に記せしが右は愈來月十日と御決定相成りになり昨日其旨を仰出さるたるよし尤も御還幸は來る五月十四日と御豫定なりしやに聞く又昨日行幸供奉を仰付られたる人々ハ有栖川左府宮、小松宮を始め杉宮內二等出仕、德大寺侍從長、其他太政官、宮內省の書記官、侍從侍醫以下屬官數十名なりしと

○行幸の御順路　行幸御發輦の御日取愈々來四月十日と御決定相成り扨其順路は先の横濱より御乘船、馬關御上陸、豐前國行事村あて廣島熊本兩鎭臺の對抗運動御親閲の後、周防三田尻へ渡らせられ同所より山口縣下御巡覽、夫より馬關に至らせられ同所より御乘船して廣島縣下御巡覽再び御乘船にて岡山縣へ御立寄の上、同所より陸路を大坂京都へ越させられ京都へ暫時御駐輦の上還幸遊ばさるゝ御都合なりと但し京都より御乘船にあるか又は陸路よりなるか未ダ御決定ならざるよしなり

○檢査として出張　渡邊大藏權大書記官外五氏は一昨十六日同省より於て左の通仰付けられより

大藏權大書記官　渡邊欽一郎
國庫營繕取扱所檢査トシテ左ノ縣々ヘ出張被仰付候事
福島縣　宮城縣　青森縣　函館縣
大藏少書記官　天野仙輔
國庫營繕取扱所檢査トシテ左ノ府縣ヘ出張被仰付候事
東京府　神奈川縣　靜岡縣　愛知縣　三重縣　岐阜縣　福井縣　石川縣　富山縣
大藏少書記官　吉田市十郎
國庫營繕取扱所檢査トシテ左ノ縣々ヘ出張被仰付候事
兵庫縣　廣島縣　山口縣　島根縣　鳥取縣

大藏權少書記官　山口宗義

國庫營繕取扱所檢査トシテ左ノ縣々ヘ出張被仰付候事
埼玉縣　山梨縣

國庫營繕取扱所檢査トシテ左ノ縣々ヘ出張被仰付候事
長崎縣　宮崎縣

國庫營繕取扱所檢査トシテ左ノ縣々ヘ出張被仰付候事
大坂府　高知縣

○監査として出張　渡邊大藏權大書記官外五氏は一昨二日に和田騎兵大尉外二等主稅官有栖川宮の通達したり

○軍法會議判決　京都府大坂鎭臺兵隊換等監査

○會計主務官會議　渡邊大藏權大書記官外五氏は一昨二日に和田騎兵大尉外二等主稅官有栖川宮の通達したり